

光と緑の風通信

発行/2025年3月10日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 Tel.024-547-1111 (代)

修了生2名が専門看護師認定審査に合格しました！

看護学研究科長 坂本 祐子

クリスマスで街が賑わう12月24日は、令和6年度専門看護師(Certified Nurse Specialist : CNS)審査の合格発表日で、修了生2名が精神看護専門看護師に合格しました。1名の方は研究コースを修了後、看護師として医療機関に勤務しながら、科目等履修生制度を活用し、時間をかけCNS審査申請要件に必要な単位を取得し、合格に至りました。学び続ける意欲を持ち行動し続けることの難しさ、その過程で生じる苦労は計り知れず、頭が下がる思いです。



看護学部加藤講師の専門看護師徽章です。
この徽章を付けている看護師がCNSです。

CNSコースを修了していなくともCNSへの道は開かれています。進学時に種々の制約によりCNSコースを断念し、研究コースを修了した方でCNSを目指したい方、「がん看護」「小児看護」「精神看護」の3分野限定になりますがお問い合わせください。また、現在、看護学研究科では、CNSを目指す看護職の方がより履修しやすいように、履修規定などを検討しています。情報は本学HPに掲載しますので、時間のある時に訪問ください。

(さかもと ゆうこ)

ニュース&トピック

日本パラスポーツ看護学会 第6回学術集会

基礎看護学部門 教授 黒田 るみ



2024年6月22日(木)に、郡山市の福島県看護会館みらい(福島県看護協会)において、ハイブリッドで開催しました。

「パラスポーツを支える看護の基本—安全と休息—」をテーマに、実行委員会は、基礎看護学部門の川島理恵先生を委員長に、基礎看護学部門の教員、大学院生、卒業生等を中心に組織しました。当日は、実践・研究ともに豊富なパラスポーツ界の専門家による教育講演、国内外パラスポーツ大会への帯同看護師体験の紹介、看護師、理学療法士、当事者の皆様による一般演題発表、パラスポーツ体験シミュレーター、プロジェクションマッピング、整体マッサージの3つの体験コーナー、シンポジウムでは、パラスポーツアスリートの皆様の体験を共有していただきました。

これらのプログラムを通して、約100名の参加者の皆様と、これから発展を目指すパラスポーツ看護学の独自性や課題を考えていきました。ご協力くださった皆様、ありがとうございました。

(くろだ るみ)



学生生活 紹介



1年間の学びと これからへの決意

看護学部1年 今野 遥斗



看護学部に入學してからの二年間は、私にとって充実した時間でした。初めての大学生活は期待と不安が入り混じっていましたが、友人や教授との出会いを通して、少しずつ自分の居場所を見つけることができました。

授業では、看護学の基本や解剖生理学、心理学など多岐にわたる科目を学びました。特に、ディサービス等での実習では、日々の小さな気づきが、患者さんとの円滑なコミュニケーションに繋がることを実感しました。実習での経験は、教科書では学べない貴重なものであり、看護師としての責任感が一層強まりました。

また、仲間と共に学ぶことで、互いに励まし合い、成長できたことも大きな財産です。試験や課題に追われる日々の中で、時には挫折そうになることもありましたが、支え合うことで乗り越えることができました。

この一年を通じて、看護の道を選んだことに誇りを持つようになりました。これからも学び続け、患者さんに寄り添い、信頼される看護師を目指して精進していきます。

(こんの はると)

基礎看護学実習Ⅱを 通して

看護学部2年 野村 美月



1年生の時と比べ専門的な科目が増えた2年生では

実践的な看護技術の授業や基礎看護実習Ⅱを通して多くの学びを得ることができた年でした。特に、約2週間行かせていただいた基礎看護実習Ⅱでは実際に患者さんを受け持たせていただき、講義だけでは学ぶことのできない経験を積むことができました。対象の方の療養環境や身体の状態を知り、それに合わせた看護過程の展開を通して入院されている患者さんの理解を深めることができ、この実習で得られた多くの学びを次の領域別実習に活かしていきたいと思います。

実習中は看護記録の提出や看護計画の立案に追われ、少ない睡眠時間と初めての経験ばかりで心が折れそうになりましたが同じ志を持つ仲間と共に高め合って乗り越えることができました。

3年生ではより専門的な領域別実習があります。基礎看護学実習Ⅱで学んだことを礎に、今まで学んできた知識、看護技術を復習して実習に臨みたいと思います。

(のむら みづき)

領域別実習での学び

看護学部3年 小野 藍斗



今回の実習を通して、疾患や外傷によって健全な状態が

阻害されている方や、治療や疾患によつてセルフケア能力が低下している方に出会い、その中で私は”その人らしさ”を活かした看護の重要性について学びました。

看護を展開していく中で、目標や目的を明確にして対象に働きかけることも重要ですが、目標設定の過程において、患者さんの思いや気持ち深く理解して、医療者と患者さんの目標を共にすることで、患者さんの主体性を引き出し、その人らしさ”を活かした看護を展開できるのだと痛感しました。

この領域別実習は私にとって、これまでの学生生活における大きな正念場になったと実感しています。看護師によるケアの仕方次第で変わるものがたくさんあるのだと学び、看護の面白さと奥深さに触れることができました。この学びを忘れることなく、今後も看護に対する学識を深め、技術の向上を図るべく、自己研鑽に努めていきたいと思えます。

(おの あいと)

時は金なり

看護学部4年 田中 愛咲



自分の学びたいことをとことん突き詰めていける、この学生の時間の

が人生においてどんなに貴重なものか、卒業間近の今になって気付きました。

大学入学時、私は漠然と、患者に寄り添える看護師になりたいと考えていました。しかし、こうして看護を学ぶうちに「寄り添う」とはどういうことなのかを、深く考えるようになりました。一言でまとめるのは簡単ですが、本来、自分とは違う他者を理解し、寄り添うのは非常に難しいことです。実習では患者の人生にも触れ、看護の奥深さを知りました。こうして自分が4年間かけて学びたいと決めた看護を、自分の納得いくまで学べたこの時間は、決して無駄にはできないもの、まさに「時は金なり」でした。

貴重な学びを提供して下さった先生方、友人、そして、遠くからずっと応援してくれた家族には感謝してもしきれません。看護師になって良かったといつか胸を張って言えるよう、この貴重な経験を糧に、これから始まる看護師人生を楽しんでいきたいです。

(たなか まなみ)

水菓

大学院博士前期課程1年

加藤 修人



米澤穂信の小説、古典部シリーズの一作『水菓』を今回の

の題名にお借りしました。このシリーズはヒロインの「私、気になりません」の言葉から物語が動き出します。看護師として臨床に出てから6年目となる今年度より博士前期課程へと進学しましたが、そのきっかけは「なんか気になる」そんな漠然とした疑問からでした。

受験、そして大学院最初の1年間を通し、論文を読む力、考えを言葉にする力が培われ始め、漠然とした疑問はクリティカルケア領域での患者の安楽・コンフォートを如何にして実現するかという疑問へと少しずつ形作られてきました。患者にどう利益をもたらすか、これを大学院で意識するようになり自分の興味でしかなかった疑問が結論を見出す意義のある疑問に変わったと感じています。

働いていると些細な疑問が簡単に湧いてきますが、まずはひとつの「気になります」に残りの博士前期課程を通して答えを見出ししていきたいと思っています。

(かとう しゅうと)

部活紹介



ラグビー部の活動

看護学部4年 阿部 円香

こんにちは！ラグビー部です。ラグビー部は現在48名で週に3回元気に活動しています。看護学部からはプレイヤー2名、マネージャー8名が在籍しており、看護男子も大活躍できる部活動です。

毎年、四大定期戦や東北地区のリーグ戦、東医体など多くの大会に参加するため、少ない時間も効率的に使いながら日々の練習に励んでいます。大学からラグビーを始める部員も多いですが、部員同士で教え合いながら和やかな雰囲気の中で活動できることがラグビー部の魅力です。

また、ラグビーは激しいスポーツのため、マネージャーには怪我の対応や練習のサポートをするのが求められます。

試合中も多くの役割があり、臨機応変に対応しなければならぬため大変なことも多いですが、トライが決まった瞬間の感動は何にも代えがたいです。

活動を通じて、チームワークや責任感、そして自己成長を実感できることもラグビー部の大きな魅力です。これからも部員同士で支え合い、楽しみながら練習に励んでいきます。

(あべ まどか)



福島県立医科大学管弦楽団 第44回定期演奏会を終えて

看護学部4年 橘 未来

私たち、福島県立医科大学管弦楽団は、昨年の11月末に第44回定期演奏会を開催しました。コロナ禍以降は例年3月に開催していましたが、今年度はコロナ禍以前のように11月に開催する運びとなりました。そのため、今年度の練習期間は約8カ月間と例年より短く、特に夏季休暇明け以降は集中的に放課後や休日の練習に取り組んできました。トレーナーの先生方からも合奏やパート練習を通して手厚いご指導を何度もいただき、日々の学びが着実に本番への自信に繋がりました。

演奏会では、観客の方々から大きな拍手や多数のお褒めの言葉をいただき、とても嬉しかったです。定期演奏会にお越しいただいた皆様、本当にありがとうございました。

管弦楽団は定期演奏会を以て新体制となりました。現在は次回2026年3月の定期演奏会に向けて各自個人練習を中心に取り組んでいます。次回の定期演奏会も是非お越しくください。管弦楽団のさらなるご活躍を期待しています。

(たちばな みく)



看護学部教員紹介 ⑥



看護学部には約50名の教員がいます。
その教員をシリーズで紹介いたします。
第6回目は地域・公衆衛生看護学部門の教員紹介です。



【地域・公衆衛生看護学部門】

地域・公衆衛生看護学では、誰もが住み慣れた地域で健康にその人らしく生活できるための看護について学習します。あらゆるライフステージにあるすべての健康レベルの個人、家族、集団、さらに組織や地域を対象とした支援方法を習得し、地域全体の健康を高めるために人々と協働して活動できる人材の育成を目指しています。



高橋 香子

誰もがその人らしい生活を営むことができるコミュニティや地域づくりを、地域の人々とともに展開することを大切にしています。



阿久津和子

学生のみなさんからエネルギーをいただきながら、これからも教育・研究・地域活動に取り組んでまいります。



鹿俣 律子

出会いを大切にしながら、学生のみなさんといっしょに地域・公衆衛生看護の楽しさを見つけていきたいと思っています。



高崎 千聡

学生のみなさんが楽しく学んでいけるよう、学生さんの立場に立ってともに学び、成長していきたいと思っています。

編集後記

多くの在学生および教員にご尽力いただき「光と緑の風通信第68号」を発行することができました。心より御礼申し上げます。

本号で掲載しております学生生活紹介では、おもに臨地実習で得られた経験、内省、志が記述されています。臨地実習を端緒とした在学生の人的成長の様子が見て取れますので、ぜひお読みいただきたく思います。

さて、ポストコロナ時代になりましたが、多くの医療機関では「1回30分程度」の面会制限が継続しており、ご家族様が患者様をケアする、コミュニケーションをとる、などといった時間はまだ十分ではありません。したがって、患者様の入院生活満足度はわれわれ看護職者のケアの在り方に左右されるといっても過言ではありません。

皆様方におかれましては、福島県立医科大学看護学部在学中に、同期先輩や後輩とより多く議論し、多くの教員の研究室を訪ねていき志の門を拓いていってほしいと願っています。

副編集長 木村 涼子

◆編集委員

編集長 鈴木 学爾
安部 猛
井上 水絵
佐藤 利憲
蓬田 美保
鳴原 利洋
木村 涼子
関亦 明子